津奈木公民館
電話(78)5400
○右の題字は「徳富蘇峰さん」の顔を写したものです。

津奈木

シャツブラウス

平国地区、玉葱畑にて

春の出番を待つ玉葱

例年のことながら、今年の冬も厳しい寒さでした。しかし、二月も中旬となれば「三寒四温」の訪れを感じるようになってきました。初冬のころは海浜地区、山手地区と問わず傾斜地には黄色に色づいていたみかん畑も今は収穫がすんで淋しくなりました。

いよいよ、次の出番を待つかのように、人も植物も活気を出しはじめました。陽気に誘われて動き出して欲しいものです。

写真のように畑では春を待ちきれぬように一斉に成長を始めました。寒さに耐えて地下茎で春の訪れを待っていた玉葱は日一日と背伸びして太くなっていよいよ出番を待っています。

私たちの食卓を賑わせてくれるのも間近いことでしょう。

一言

「勉強と言ったら、何をイメージしますか。」通勤途上、カーラジオから流れるレポーターの声に、職業柄、思わず聞き耳を立てる。「暗記する」が多くて、「考えるは」少ない。

時間がゆっくりと流れた時代は、一度憶えれば一生そのことが役に立った。島倉千代子の「東京だよ、おっかさん」が流行れば、老いも若きも口ずさむまで、ラジオから歌が流れ続けた。古き良き時代である。

しかし、モー娘だかミニモニだか、よく分からないグループが、次から次へとめまぐるしく歌を出す御時世である。洪水のような情報に翻弄されて、憶えるどころではない。こんな時代の勉強とは、全てを憶えることではなく、必要最低限の基礎基本を憶えて、それを十分に使いこなす応用力を伸ばす。何を調べるのか、どんな調べ方が分かりやすいか、活用の仕方を身に付けることである。

「暗記」より「考える」学校は今、勉強のイメージを変えることに取り組んでいる。（津奈木小学校長）

子ども美術館(12)（町文化協会奨励賞作品）

「くわがたとり」

平国小一年　ながはま　ひろき

この絵は、ぼくがあみでクワガタをつかまえようとしているところです。人間の体をかくのが、むずかしかったです。自分では、クワガタのはさみが上手にかけたと思います。

「船　ー波面の雲ー」

津奈木中三年　西平　善郎

全体的に描きこまれている作品と思います。構図も、船を中心にバランスがとれており、また、配色も、水面を塗り分けて遠近の様子をよく表しています。上級生らしい落ち着いた作品に仕上がっています。

郷土を知ろう

二本の道（その二）

道のキーワードは、平野では水・村・寺社・城である。山地では峠が加わる。

津奈木本村を囲んでいる山のうち、東で最も低い鞍部は弥太越（ヤタ）である。そのほか薩摩往還の津奈木太郎峠（タロウ）、芹田（セリタ）越（湯浦山川）、笹迫（ササハザマ）越（湯浦一渡瀬）がある。

西に目を向けると歌坂（ウタサカ）峠しかない。重盤岩に登って見渡せばよくわかる。

津奈木の名水は日添（ヒソ）にある。倉谷乱橋（ミダルバシ）（水垂（ミズタレ）レ端（ハシ）が訛った）日野村には四ヶ所も湧水があった。

古中尾の奥の水天さん、出口（亀萬醸造用水）、山頭（中尾・竹中簡易水道用水）いずれも南の矢城の麓にある。何軒もの人数を養うに足る水量のあるところに村ができる。住居があり、多くの人間が集まると信仰心から祠（ホコラ）やお堂が造られ、神社やお寺に発展する。

道沿いに城を築く。柵で囲った簡単な城でも、武装した侍から「オイ、コラ」とやられると萎縮する。倉谷公民館の裏にある出鼻を花山城（カヤイ）と地元の人は呼ぶ。ハナは鼻で、守り易く攻め難いので各地に城がある。

野首の西側に栫（カコイ）があり、七軒の家が昭和の初めまであった。栫はハナと同様に城に付く地名で、筆者は野首城（クビ）と名付ける。（以下次号）

（岡松荘一郎）

すこやか家庭教育学級

津奈木幼稚園で

第二回目すこやか家庭教育学級が、講師の村山悦子さんを迎えて腹話術による、子育てについて問答形式でありました。園児たちと人形、講師、園児による対話しながらの肩のこらないお話で園児たちも生き生きと聞き入っていました。

講話後保護者と「子育て」についての懇談会が実施され自らの子育て実践によりおかあさんたちにアドバイスされました。

また平国小学校で二月十九日午後七時三〇分から第三回目の家庭教育学級が「子育て・家庭教育の大事さ」と題して熊本県家庭教育研究所長の石坂真好（まさよし）先生の説得力のある講話がありました。校区内ＰＴＡ会員、教職員関係者45名が熱心に「思いやりの心」「心豊かな心」になる子供の育て方をどうすればよいのかとその手法に耳をかたむけていました。基本となるのは、親子の信頼関係、すなわち「母子一体感」から自己肯定の子供が育ち自立成長につながって行くと力説され、改めて自分を見直す良き機会となりました。

第四回目は三月十七日(日)
場所　つなぎ文化センター
講師　野田亜紅（ＴＫＵアナウンサー）
時間　午前十時～
「健康づくり推進大会」の一環として「すこやか家庭教育学級」を開催しますので多数のお越しをお待ちしています。

野田　亜紅さん

編集後記

いよいよ今年も年度末になりました。高校生は卒業してそれぞれの道（進学、就職）に進まれることでしょう。中学生の皆さんは受験勉強の最終段階、悔いのないよう頑張ってください。素晴らしい春が到来することを祈念いたしております。

今回、転居のため編集委員を辞めさせて頂くことになりました。大変お世話になりました。有難うございました。

（田尻編集員）

新刊案内

児童書
- 平和マンガ作品集（全20巻）
- きょうりゅう　あつまれ
- おうちでかえる　どうぶつ
- 千と千尋の神隠し
- そだててあそぼう（全35巻）
- エリックカールの絵本（全24巻）
- ハリーポッター（全3巻）

一般書
- 新しい歴史教科書
- 精霊流し
- 60歳のラブレター
- 声に出して読みたい日本語
- 利家とまつ（上・下）
- 世界がもし100人の村だったら
- 伊藤家の食卓
- おめでとう皇太子さま　雅子さま　愛子さま

なぜ学校は週5制？

Q

ⓐ　家事などの手伝いや自然とふれあうこと、地域社会でのさまざまな体験は子供達にとって、「豊かな心」を育むうえで大変重要なことです。

子どもたちが自分のために使う時間を確保し、家庭や地域社会で生活体験や自然体験、社会体験、文化・スポーツ活動など、さまざまな活動や体験する機会をもつことができるように、学校は本年４月から『完全週５日制』が導入されます。

生きる力を育む

現在、子供達は家の手伝いや、友達と屋外や自然の中で遊んだりする機会が減少してきています。

また、善悪を判断する心、人を思いやる心など正義感や道徳観が身に付きにくくなっていると言われています。

学校・家庭・地域において、さまざまな社会体験や生活体験などの機会を増やし、体験を基盤とした協調性や主体性・忍耐力など豊かな人間性を養っていく必要があります。

エレクトーンを寄贈

元水俣市助役
福島正九郎氏

昨年十一月上旬、本町上下門ご出身で元水俣市助役を勤められた福島正九郎様より、教育委員会を通して「町民の情操教育の一助に」という暖かいご厚意で、使用頻度の高い、一連の音楽機器の中でも最高級品の「エレクトーン」をご寄贈いただきました。

今までは、児童・生徒の発表会などでは、指導者の機器をそのつど持込む状況でした。

今後は、学校教育・社会教育などの団体等にＰＲし、文化センターでの利用増進を図り、文化活動の向上に活用を図りたいと思います。現在は、熊本市黒髪町にお住まいです。今後共、健康にご留意なさって、いつまでも本町発展のために、お力添えをお願いしたいものです。

平成十三年度熊本県地婦連指定婦人学級「事前発表会」

去る、二月三日、津奈木文化センターに於いて、郡地婦連協議会を代表して赤崎校区婦人会長篠原尚子さんが「地域に密着した活動を目指して」というテーマで地域に根ざした活動状況の発表がありました。

特に、県地婦連は、組織、青少年育成、日赤福祉、環境、交通安全等と各分野別研修を深めています。

赤崎校区はお年寄りが多い地区なので平生声かけ運動を実践されてます。「買物に行きますが何か買ってくるものはありませんか？」「ゴミは出されましたか？」と言った具合に声かけを心がけ、出来る事は地域の人の手でお世話をされているとのことでした。

発表する篠原会長

心の教育を!!

去る二月三日教育評論家の北村弥枝（みつえ）さんの“家庭教育講演会”に参加し、講師の「子育ての実践体験」からの熱弁に心から感銘を覚えました。今、一生懸命子育てに励んでおられるお母さん方がおられますが、現在、子供達の『心の病』の問題は、元をたどると、妊娠中とか出産後の育児に母親がどのような思いで接して来たか！だそうです。

赤ちゃんは、抱き癖がつくからと…ほとんど乳母車が多かった。乳幼児期に忙しくてスキンシップが無かったと反省している親も少なくないのでは……。

二人の子供を育てあげた母親でもある北村さんは、もう子育ては終わったとあきらめないで、子育ては何歳からでも間に合うとハッキリ体験にもとづいて話されました。

母の心を45歳で再び呼び起こされたのは、子どもへの厚い愛情であり、数年間かけて自分の心を変えようと努力されてきたことは、「自分を高めるエネルギー」となり、さらには「人を尊ぶエネルギー」となることがわかり、そうすることで“子どもの心は自然と良い方向に変わる。”と力説されました。（津中ＰＴＡ会員）

読書感想文

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで

津奈木小３年　村上　史織

ちいちゃんたちの生活とくらべてわたしたちは、すごくぜいたく、幸せな日々を送っていると感じました。「自分たちが、もしもちいちゃんたちのような時代に生まれていたら」と思うとせすじがぞくぞくします。だって、その時代には、あまり食べ物もないし、安心してねむることもできないのだから。わたしたちが、その場にいたら、経けんしたこともないことだから、ただ立ちすくむか、むがむ中でにげるかのどちらかになるでしょう。それが今、起きたら、頭の中が真っ白になって、ゆうたいりだつしてしまうほどの、きょうふ感だと思います。

わたしは、おばあちゃんに戦争の話を聞いたことがあります。おばあちゃんはその頃、小学生でいつもビクビクしながら学校に行っていました。その頃は私たちのように、みんながせい服を着れたのではなく、くじで当たった人、たった一人が、せい服とくつをもらえることになっていたそうです。ある日、学校の空しゅうけいほうが鳴り、学校のうらにあるぼう空ごうに、みんなでにげこみ、せなかを丸めてドキドキしながらこもっていたそうです。外を見ると、みるみる赤い炎につつまれていったそうです。わたしのばあちゃんは運がよかったんでしょうか。それとも、運命だったんでしょうか。だったら、ちいちゃんも死んじゃう運命だったのかもしれない。

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで戦争というものは、とてもこわいものだと強く感じました。

ここに、こんな人が・・・・

津奈木町文化協会理事長

橋口　末信さん(65)（川内）

津奈木町文化協会理事長を六年間されている川内の橋口さんをお訪ねしました。

橋口さんは農協に三十一年間勤務されて退職、現職の時から歌を始められ二十年余り、三度の飯より歌が大好きでカラオケ大会では数々の賞を受賞され現在では七段（県加寿美苑）師範級だそうです。チャリティショー等主催されその益金を社会福祉協議会、芦北郡障害者協会へ寄贈され大変喜ばれておられます。又身体障害者カラオケ大会県予選会では審査委員長も務められています。

辻地区に牧場を経営され現在百頭余りの黒肉牛を飼育されておられます。

牧場にはバスを改造しカラオケルームを作り練習の場になっていて「牛も音楽を聞いてリラックスし、発育良好でとても役立っています」と話される橋口さん。

健康の秘訣は、と尋ねたところ「人生は元気で、趣味を楽しみ、母ちゃんと仲良くが私流の健康法です」と答えて下さいました。

長男さん家族と同居され三人のお孫さんも楽器に興味を持たれ、練習を楽しんでおられるようでした。

多趣味の橋口さんですので今後益々のご活躍を願っています。（石田記）

民生委員・児童委員として活動し始めて二十一年の歳月が流れていきました。

ふり返れば昭和五十五年当時の園田直厚生大臣、沢田一精熊本県知事、六車孝吉津奈木町長の、各委嘱状を頂き、地域の皆様に支えられ任務を果たすことができました。厚くお礼申し上げます。委嘱状はなつかしく、感謝状で幕は閉じ、嵩みゆく歳に一抹の淋しさを感ずるこの頃です。

節目の年の思い出

民生委員・児童委員制度七十周年は、昭和六十二年でした。熊本県民児協は六月二十四日記念事業の一環として「民生委員の翼」の実施（沖縄県南風原町・糸満市両民協と交流）

十一月二十八日は熊本市民会館で記念大会が行われました。

尚「愛の小鳩」訪問活動も開始されました。

「二十一年間の民生・児童委員を終えて」

民生委員・前児童　森山勝喜

あれから十年、平成九年は八十周年を迎えました。

五月十二日は東京で全国大会が行われました。津奈木民児協は五月十五日、西川町長の許可をもらって、四季彩駐車側の河川敷に「サツキ」の記念植樹をして、午後は民生委員の先輩方との懇親会で、思い出に残る記念行事ができました。

十一月二十八日は、熊本市民会館で午前中、社会福祉大会で午後は八十周年記念祝典が盛大に行われました。私たちも七名参加しました。制度発足以来八十年の歴史の重みを痛感した記念行事が脳裏に浮かびます。他に実施された事業は、記念誌の発行や、林市蔵先生の墓前祭及び墓地整備が実施されました。

林市蔵先生について

先生は慶応三年十一月二十八日、熊本市横手町で出生されました。方面委員制度創設（大正七年大阪府で）当時の大阪府知事、「民生委員の父」と慕われている。

平成十三年は社会福祉法又二十一世紀最初の民生委員の一斉改選が実施、十二月一日から活動始めました。この意義ある年を記念に、四季彩の館長、町長の許し得、十一年二十二日温泉側の河川敷に、植樹しました。五月は、きれいな花が楽しまれることでしょう。

短歌

本郷武雄選

つなぎ短歌会

冬草の中に芽生し金魚草
昨年（キゾ）こぼれたる種子にかあらむ　沢田シズヲ

帰省する子等をまちつつ献立を
考えおりぬ暮もせまりて　西川　ムキ

たっぷりの雨にふくらむ寒菊の
蕾つぎつぎ開花なしゆく　福田八重子

独り居の暮らしの中におとずれし
孫にはさまれみちたり眠る　白浜美和子

山裾の観音堂の鏡餅
年ごと盗むは狸らならむ　西　滋子

にぶ色の空ともすごと梅擅の
熟実にまとふ雨露ひかる　寺本ツルヲ

いつの日かふたたび訪はむ子の家を
辞し来て帰る特急「ひたち」　野田　浦子

肥後狂句

ぬしもぬし、言ってよかこつ悪かこつ
ごゆっくり、ガツガツ食わず、ようかまにゃ　寅之助

ぬしもぬし、なしてそん時ことわらん立ちきらんごて呑まんちゃ
ごゆっくり、あとの勘定頼むばい　宰　相

ぬしもぬし、あぎあん男にきや惚れて
ごゆっくり、山の宿屋の夜は長か　達　生

ぬしもぬし、馬鹿に打っちゃう方が馬鹿
ごゆっくり、昼寝どんしてして行きなっせ　万　葉

ぬしもぬし、二度も三度もだまされて
ごゆっくり、たまにゃ里で息抜いて　神無月

〔次回の笠〕
○今ひとつ　○猫かぶり
一笠二句を　四月八日(月)迄
津奈木町教育委員会へ